

前置癒着胎盤症例の後方視的検討

1. 研究の対象

2006年1月から2017年12月までで当院で管理および分娩した前置癒着胎盤患者の患者さん。

2. 研究目的・方法

癒着胎盤は胎盤の絨毛組織が母体子宮の筋層に侵入することで胎盤の子宮からの剥離が困難となる病態で、胎盤遺残や剥離面からの出血により産褥期の大量出血の原因となります。発生頻度は2500分娩に1例の頻度ですが、前置胎盤の場合約10%に合併します。近年、不妊治療や帝王切開術の増加によりその頻度は上昇傾向にあります。

癒着胎盤が原因で止血困難となった場合、根治術として子宮全摘出が必要となりますが、子宮動脈を塞栓し胎盤への血流を遮断することで、子宮を温存できる可能性があります。

しかし子宮動脈塞栓術は妊娠する確率が低下したり、感染症などにより子宮全摘出術を余儀なくされる例もあります。そのような観点からも前置癒着胎盤の患者さんの管理については一定の見解は得られていません。そこで今回、当院で管理・分娩を行った前置癒着胎盤の患者さんの症例をまとめ管理指針について検討することにしました。

なお本研究は本校個人情報管理指導者の指導の下、本研究に中立である防衛医科大学校病院産科婦人科鈴木亜矢子先生が個人情報取扱者として責任を持って、患者さんの匿名化を行った上で個人情報を厳重に保管し、情報漏洩が生じないように留意します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、分娩記録、カルテ番号 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校 産科婦人科学講座

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

電話：04-2995-1511（内線2363）

FAX：04-2996-5213

研究責任者：講師 宮本守員